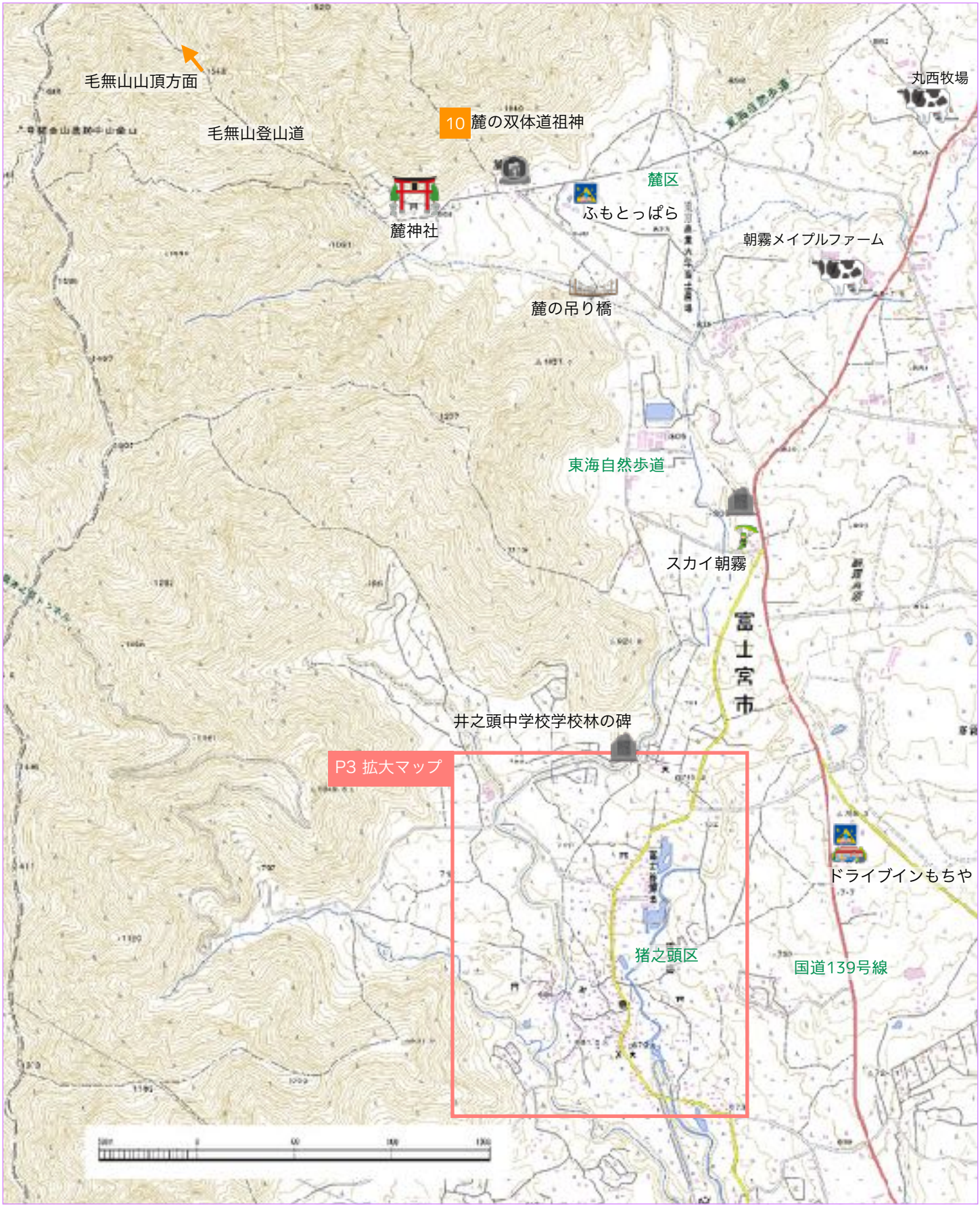
朝霧野外活動センター
周辺みどころガイド

令和６年度版

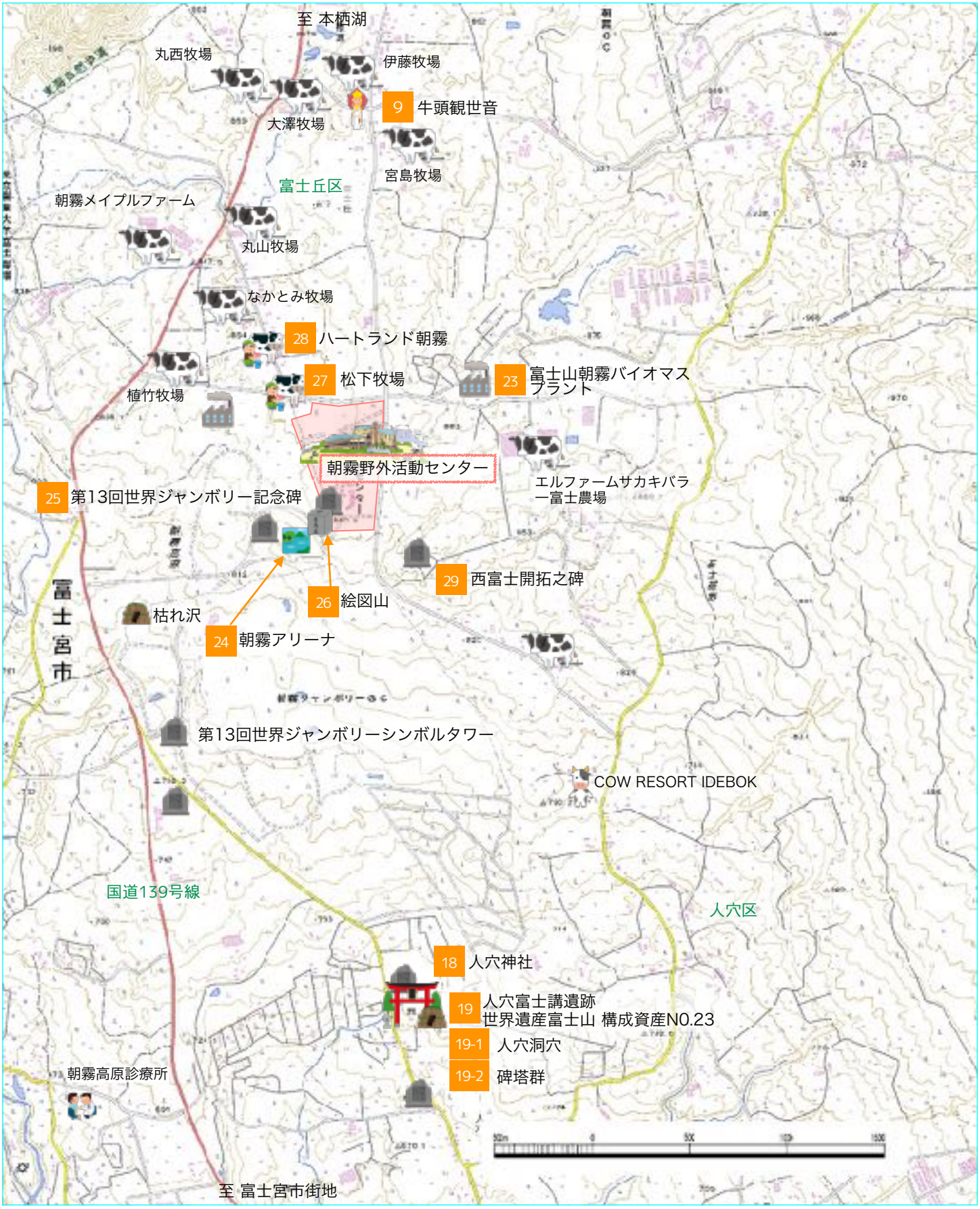
静岡県立朝霧野外活動センター
指定管理者：日本キャンプ協会グループ
〒418-0101 静岡県富士宮市根原１番地
TEL 0544-52-0322
FAX 0544-52-0320
Mail asagiri@camping.or.jp
URL http://asagiri.camping.or.jp/

みどころマップ　①麓・猪之頭



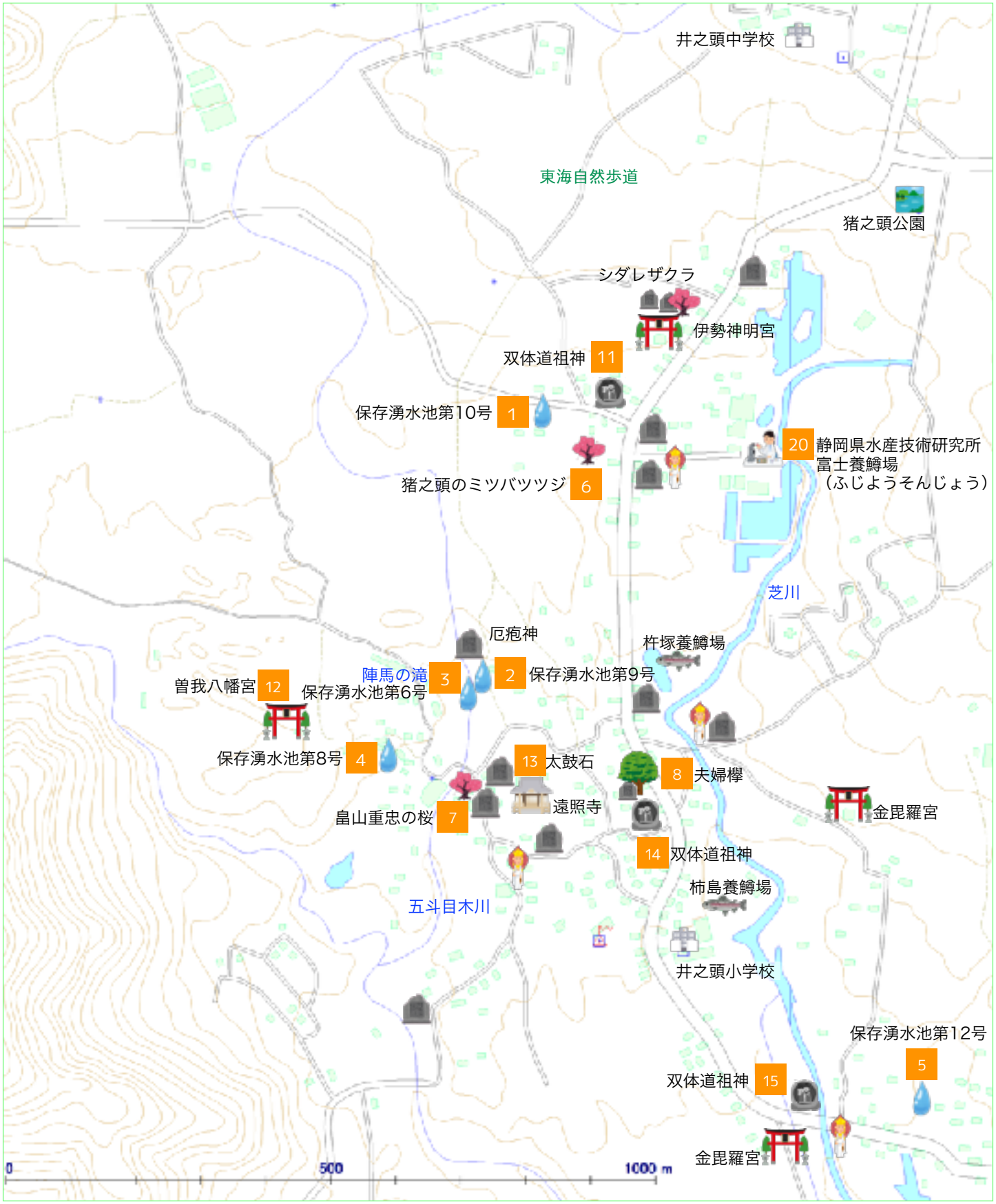
酪農体験ができる牧場　観光牧場　その他の牧場　石碑・記念碑

みどころマップ　②富士丘・人穴(北部)



石仏等　双体道祖神　神社　工場　火山の地形　公園

みどころマップ　③猪之頭(拡大)



石仏等　双対道祖神　神社　石碑・記念碑　保存樹　保存湧水池　研究所　寺

みどころマップ　④人穴(南部)・田貫湖周辺

酪農体験

朝霧高原には約600ヘクタールもの広大な牧草地があり、静岡県内の生乳の40パーセントを生産する、一大酪農地域です。

地域の酪農家が中心になって設立された「富士あさぎり農業体験組合」では、さまざまな農業体験を提供しており、特に「酪農体験」が充実しています。現在、松下牧場、ハートランド朝霧、小林牧場、市の瀬牧場の４つの牧場が、団体の酪農体験を受け入れています。詳細は、富士ミルクランドにお問合せください。　TEL 0544-54-3690

1 保存湧水池第10号（猪之頭）

猪之頭という地名は、かつて「井之頭」と表記されていました。それは、この辺りが富士山とその周辺の山に降った雨や雪が湧き出す場所の一つであり、「猪之頭湧水群」と呼ばれ、多くの湧水池があるからです。

この湧水池の1日の湧水量は13,000㎥で、現在は主に農業用水として使われています。湧き出し口のそばには水神様が祭られ、湧水池とともに地域の人々の手によって大切に守られています。

2 保存湧水池第9号（猪之頭）

この湧水池の1日の湧水量は13,000㎥で、湧き出した水は生活用水や農業用水として、今でも大切に使われており、この遊水池の下流ではワサビ栽培も行われています。
池の真ん中に置かれた水神様の祠は、湧水池とともに地域の人々の手により大切に守られています。
猪之頭湧水群は、バイカモをはじめ、湧水に生息する典型的な水草群落が広がり、多数の湧水流が地区全体に散在する湿地は貴重であるとして、環境省の重要湿地に指定されています。

3 陣馬の滝・保存湧水池第6号（猪之頭）

建久４年(1193年)、源頼朝は武士の力を朝廷に見せつけるため、富士山麓で大規模な狩り「富士の巻狩り」を行いました。その時にこの滝のそばで一夜の陣を張ったことから、「陣馬の滝」と呼ばれるようになりました。
上流から流れてくる水と、溶岩の間から湧き出す水で滝が形作られており、世界遺産富士山構成資産のひとつである白糸ノ滝と同じく、富士山の溶岩の構造や湧水の仕組みを観察することができます。
１日の湧水量は48,000㎥あります。

4 保存湧水池第８号（猪之頭）

住宅地の裏手にひっそりとある湧水池で、1日の湧水量は13,000㎥あります。かつては生活用水としても使われていたようですが、現在はニジマスなどを育てる養鱒場で利用されています。

5 保存湧水池第12号（猪之頭）

猪之頭の集落の南側にあるこの湧水池には、1日に13,000㎥の水が湧き出しています。南側に開けた斜面に面しているため日当たりが良く、晴れた日には水面に青空が映り大変きれいです。湧き出した水は、生活用、農業用、養鱒用などに利用されています。
猪之頭湧水群にある湧水池の一部は、富士宮市の保存湧水池に指定されており、この８号を含めて、猪之頭地区に７つあります。
富士宮市ホームページ(富士宮市の保存樹・保存湧水池)参照
http://www.city.fujinomiya.lg.jp/citizen/qc0he80000000lpx.html

6 猪之頭のミツバツツジ（猪之頭）

日本最大級のミツバツツジで、高さ4.5m、根周り1.7m、枝張り7mあり、根元から幹が７本分岐しています。推定樹齢は600年とみられ、静岡県の天然記念物に指定されています。
花の見ごろは例年４月中旬から下旬頃で、地域では、里芋を植える時期に開花するため、イモウエツツジと呼ばれ、親しまれています。

※猪之頭のミツバツツジは民家の庭にあります。団体で見学する時は事前に訪問して相談してください。

7 畠山重忠の桜（猪之頭）

建久４年に源頼朝がこの辺りで富士の巻狩りを開催した際、家臣であった畠山重忠も随行し、この辺りに陣所を置いたと言われています。そこから、この桜は重忠が植えたものだと言われたり、重忠がこの木に馬をつないだとして「駒止めの桜」と呼ばれたりしています。

8 夫婦欅（けやき）（猪之頭）

推定樹齢250年のケヤキの巨木です。寄り添いあって立つ2.90mと1.40mの幹2本が根元で一つになっている姿から、夫婦欅と呼ばれるようになりました。夫婦欅は、富士宮市が指定する保存樹第２号で、平成３年３月１日に指定されました。
夫婦欅という名前は、明治から昭和期の政治家である尾崎行雄が、昭和の初めに富士五湖を周遊した際に名付けたと言われています。

富士宮市ホームページ(富士宮市の保存樹・保存湧水池)参照
http://www.city.fujinomiya.lg.jp/citizen/gc0he80000000lpx.html

9 牛頭観世音（富士丘）

富士丘区は、1946年に西富士長野開拓団によって開拓された場所で、今では朝霧高原で最も酪農が盛んな地域のひとつです。牛頭観世音像は、命を刻んで牛乳を提供してくれた乳牛の魂を鎮めるために、区民の皆さんによって建立されました。この牛頭観音像は、同じく区民の皆さんが建てた富士丘区民館の敷地内にあります。年に一度開かれる富士丘区秋の祭典では、牛頭観世音供養が行われています。

10 双体道祖神（麓）

富士宮市内には多くの道祖神が見られます。道祖神は道の神、境の神で、外から来る悪いものや疫病の侵入を防ぎ、村を守ってくれる神として集落入り口の辻などに建てられました。
麓集落にあるこの道祖神は、寛政12年（西暦1800年）１月に設置されました。
将棋の駒の形に整えられた石に手を握り合った２体の神様が彫られ、仲良く集落を見守っています。

11 双体道祖神・伊勢神明宮西側（猪之頭）

富士宮市内の道祖神は、男女の像が並んで彫られた「双体道祖神」が多いことが特徴です。猪之頭・上村にあるこの道祖神は、伊勢神明宮の鳥居の西側にあります。
作られた時期は不明で、船の形に整えられた石に並んで立ち、合掌する男女の姿が彫られ、集落を優しく見守っています。

12 曽我八幡宮（猪之頭）

建久４年(1193年)に源頼朝が行なった富士の巻狩りの最中、曽我十郎祐成と曽我五郎時政の兄弟が親の仇である工藤祐経を殺害する、いわゆる「曽我兄弟の仇討ち」事件が起こりました。仇討ちを果たした曽我兄弟は捕えられ、討たれてしまいます。
曽我兄弟が討たれると、鷲や鷹がやってきて兄弟の大事な臓腑をくわえて飛び去り、曽我八幡宮がある場所に葬ったと伝えられています。そのため、曽我八幡宮は鷲鷹八幡宮とも呼ばれます。

13 太鼓石（猪之頭）

建久４年に開かれた富士の巻狩りのおり、源頼朝は滝の近くに一夜の陣を敷きました。その夜、滝の下でどんどんと太鼓を打つような音がしたので不思議に思い、頼朝が滝壺を探らせてみると、太鼓の胴のように中が空洞になった石が出てきました。その石は「太鼓石」と名付けられ、近くにあった遠照寺に奉納されました。
太鼓石は、富士山が噴火した時に立ち木が溶岩流に飲まれ、その樹木が燃えた後が空洞として残ってできたもので、「溶岩樹形」と呼ばれる石です。

14 双体道祖神・猪之頭郵便局南側（猪之頭）

猪之頭・中村にあるこの双体道祖神がいつ作られたのかはわかっていません。舟形に整えた石に、並んで立つ、合掌する二人の男女の姿が彫られ、集落を見守っています。
道祖神がある地域では、１月14日に「どんど焼き」が行われます。ここ猪之頭・中村でも、道祖神の前で毎年開かれています。

15 双体道祖神・大橋西側（猪之頭）

猪之頭・大橋にあるこの道祖神がいつ頃作られたのかは分かっていません。舟型に整えられた石に合掌する男女の姿が彫られ、大橋を渡って集落を出入りする人々を見守っています。
この双体道祖神の隣には、自然石に「道祖神」と文字が彫られたもう一体の道祖神があります。

富士宮市ホームページ(富士宮市の道祖神)参照
http://www.city.fujinomiya.lg.jp/citizen/llti2b0000002ta3.html

16 田貫湖

田貫湖は、富士山の全景を真東に仰ぐ、東西1km、南北0.5km、周囲3.3kmの湖湖です。元は、狸沼又は田貫沼と呼ばれる小さい沼でしたが、農業用水を確保するため、1935年から沼に堤防を築いて拡大し、人造湖になりました。
湖畔には桜や各種ツツジのほか、北側には広葉樹林も広がり、春の桜から秋の紅葉まで、雄大な富士山をバックに美しい風景が広がっています。
4月20日前後と8月20日前後の約1週間、富士山頂から朝日が昇り、光輝くダイヤモンド富士を見ることができます。

17 小田貫湿原

小田貫湿原は、標高約680mにあり、面積は1.75haで、大小125余りの池が点在する小さな湿原です。富士山西麓では唯一残された湿原で、環境省の「重要湿地」および「重要里地里山」に指定されています。
湿原内の植物は、アサマフウロ、カサスゲ、ノハナショウブ、モウセンゴケなど63種が確認されています。
トンボは、アオイトトンボ、コサナエなど29種が確認されており、このほか蝶や両性類などの湿原特有の動植物が多数生息しています。

18 人穴神社

ここにはかつて、「光伜寺(こうきゅうじ)大日堂」がありましたが、明治時代に神仏分離令を受けて廃され、跡地に「人穴浅間神社」が置かれました。

人穴神社は、人穴地区の人々によって大切に守られてきましたが、昭和17年(1942)に少年戦車兵学校の開校に伴い地区の山野が演習地となり、住人も神社も、芝山地区に移転させられてしまいます。戦争が終わり、昭和29年にようやく復興されました。現在の社殿は平成13年に建立されたものです。

19 人穴富士講遺跡（世界遺産富士山 構成資産N0.23）

人穴富士講遺跡は人穴浅間神社の境内にあり、犬涼み山溶岩流によってできた長さ約83メートルの溶岩洞穴「人穴」と、富士講の講員が建立した200基を超える登拝碑塔等が存在しています。ここには、かつて現在の富士市から山梨県甲府市を結ぶ甲州街道（中道往還）が通っており、多くの人がこの地を訪れていたそうです。

解説 富士山（世界文化遺産　信仰の対象と芸術の源泉）

富士山は、日本を代表し象徴する日本最高峰の秀麗な円錐成層火山として世界的に著名であり、その荘厳で崇高な形姿を基盤として日本人の自然に対する信仰の在り方や日本に独特の芸術文化を育んだ山です。山岳に対する信仰の在り方や、海外に影響を与えた19世紀後半の葛飾北斎や歌川広重などによる顕著な普遍的価値を持つ「浮世絵」などの日本独特の芸術文化を育んだ山です。

時代を超えて、一国の文化の諸相とも極めて深い関連性を示し、山に対する信仰の文化的伝統を表すのみならず、世界的な「名山」としての景観の類型の顕著な事例として顕著な普遍的価値を持つ山です。

世界遺産富士山とことんガイド http://www.fujisan223.com/

19-1 人穴洞穴

人穴洞穴は、富士山の噴火によって麓一帯に流れ出た溶岩が冷え固まる過程でできた「溶岩洞穴」です。
洞穴は、南西の端が進入口となり、洞穴中央部でくの字型に曲がっています。入口から約20mの位置に祠が、30mの屈曲部手前中央には直径約5mの溶岩柱があります。最奥部までは約80mで、そのまま閉塞していると考えられています。
鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」には、人穴探検の様子が記されていて、その中で、人穴は「浅間大菩薩の御在所」とあり、この頃から、人穴が富士山信仰に関係する場所であったことがうかがえます。
江戸時代に、長谷川角行という人が人穴に篭って修行し、仙元大日神の啓示を得たとされます。その後、角行の教えを広め、学び合う「富士講」という集まりが、江戸を中心に各地で数多く開かれるようになりました。そのため、人穴は角行の修業の地・入滅の地や仙元大日神のいる場所として信仰を集めるようになり、参詣や修行のために、多くの富士講員が訪れたということです。

19-2 碑塔群

人穴浅間神社の境内地には、富士講信者が建立した232基の碑塔があります。
18世紀中頃から、江戸を中心に富士講が盛んになると、人穴は霊地(西の浄土(安楽の地))として信仰されるようになり、多くの富士講の講員がこの地を訪れました。参詣の記念や富士講先達の供養といった目的で、「墓碑供養碑」「祈願奉納碑」「顕彰記念碑」などが建立されるようになったようです。碑塔を建立するには、講の代表が事前に人穴を訪れて、石屋などと打合せ、実際の参詣に間に合うよう手配することもあったということです。碑塔群は、現在の東京都、埼玉県、千葉県を中心とした関東地方の富士講信者により、講ごとにまとまって建立されていて、刻銘から、各講の歴史や構成地域を知ることができます。

解説 世界文化遺産 富士山 の構成資産

構成資産とは、富士山が「信仰の対象」「芸術の源泉」となった価値を具体的に証明できる文化資産のこと。富士山そのものだけでなく、古より富士山と関わりを持つ周囲の神社や登山道、風穴、溶岩樹型、湖沼などがあります。世界文化遺産としてふさわしい価値を有している、富士山の構成資産は全部で25あります。

朝霧野外活動センター周辺の構成資産（()内の数字は構成資産の番号）
●富士山(1)　●人穴富士講遺跡(23)　●白糸ノ滝(24)　●大宮・村山口登山道(富士宮口登山道)(1-2)　●富士山本宮浅間大社(2)　●山宮浅間神社(3)　●村山浅間神社(4)　●精進湖(1-8)　●本栖湖(1-9)

20 静岡県水産技術研究所 富士養鱒場（猪之頭）

静岡県は都道府県別で全国一、富士宮市は市町村別で全国一の養殖ニジマス生産量を誇ります。富士養鱒場は昭和８年(1933年)に開設され、マスの養殖業者に卵や稚魚を提供していました。平成９年(1997年)からは、ニジマス、アマゴ、ヒメマス、イワナ等の川魚に関する先進的な研究開発を行っています。敷地面積約46,000㎡、飼育池面積約12,000㎡の大きな施設です。敷地内には、芝川の源流になっている、一日あたり平均湧水量が約50,000㎥の湧水池があります。

富士養鱒場は見学することができます。TEL 0544-52-0311

21 日本盲導犬総合センター　富士ハーネス

「日本盲導犬総合センター」は“盲導犬の里　富士ハーネス”という愛称で親しまれ、盲導犬の一生をトータルにケアすることを目的とした、国内で初めての施設です。水曜日と年末年始を除いた毎日見学することができ、盲導犬デモンストレーションやPR犬とのふれあいも楽しめます。団体での見学も受け付けており、盲導犬や視覚障害について理解を深める場として活用できます。

TEL 0544-29-1010　URL http://www.fuji-harness.net/

22 富士ミルクランド

富士開拓農協が設立した観光施設です。敷地内にはチーズ工場があり、朝霧高原で生産された牛乳からチーズ等様々な製品を製造・販売しています。動物ふれあい広場では牛の乳搾りや餌やりなども体験できます。その他、人気のジェラート工房、朝霧高原をはじめとした富士・富士宮地域産の野菜等の販売、レストラン、バーベキューガーデンなどもあり、朝霧高原の食を総合的に体験することがでます。
富士あさぎり農業体験組合の事務局もあり、団体での酪農体験の申し込みはミルクランドで受付けています。

TEL 0544-54-3690　URL http://www.fujimilkland.com/

23 富士山朝霧バイオマスプラント

朝霧高原では約5,000頭の乳牛が育てられ、毎日約100トンの生乳が生産されています。富士山朝霧バイオマスプラントでは、牛たちが排出すふん尿を発酵させて発電し、その過程でできる消化液を、有機液体肥料として活用できるようにして、製品にしています。
酪農地域の課題であるふん尿処理による地下水の汚染や、二酸化炭素の発生を抑え、朝霧高原の自然を守る画期的な施設です。事前の申込により、施設見学ができます。酪農体験とセットで利用されることをお勧めします。

TEL 0544-54-2770　URL https://fujisanbiomass.com/

24 朝霧アリーナ

昭和46年に開催された第13回世界ジャンボリーに合わせ、そのメイン会場としてアリーナ形式の芝生広場が整備されました。その後、富士宮市の公園として再整備され、第16回自然公園大会の開催等を経て、駐車場や公衆トイレを備える、面積約10万m2の自然公園となりました。

１月に富士宮市が開催する「たこたこあがれin富士山」が開催されたり、10月に開催される「朝霧JAM」のメインステージとして利用されたりと、多くの人に活用されています。

誰でも利用できますが、占有したい場合は申請が必要です。

25 第13回世界ジャンボリー開催記念碑

世界中からボーイスカウトが集う一大イベントである、第13回世界ジャンボリーの開催を記念して建てられた石碑です。

石碑は、朝霧アリーナの北西の隅にある、高さ５メートルほどの小さな丘の上に設置されています。

この丘からは、朝霧アリーナの広大な芝生広場の奥に、長い裾野を広げる富士山の姿を眺めることができます。

26 絵図山

朝霧野外活動センターの敷地の南西の角にある小高い丘は、「絵図山」と呼ばれています。ここは、根原・人穴・猪之頭・麓各地区の４つの字の分岐です。

地元古老の言い伝えによると、その昔、武田家が金山奉行である竹川氏に命じてこの地域の絵図(地図)を作りにあたり、ここに立って、西側の毛無山に向かい右目で見える範囲を麓、左目で見える範囲を猪之頭、東側の富士山に向かって右目で見える範囲を人穴い、左目で見える範囲を根原地区として、地図に記した所とされています。

現在はここに、標高860mの三角点が設置されています。

27 松下牧場

朝霧野外活動センターの北側に隣接する、センターのお隣さんの牧場です。ホルスタイン、ジャージー、ブラウンスイスなど約100頭の乳牛を飼育しています。

松下牧場は、社団法人中央酪農会議・酪農教育ファーム推進委員会公認の「酪農教育ファーム認証牧場」で、県内外の小中学校や一般の方々を対象に「酪農体験」を提供しています。

乳しぼり、餌やり、ブラッシングなどの乳牛のお世話のほか、バター作りも体験できます。命の尊さや食べ物の大切さを学ぶことができる、素敵な牧場です。

28 ハートランド朝霧

朝霧野外活動センター北側の富士丘地区には、多くの牧場が集まっています。そのほぼ真ん中にあるのがこのハートランド朝霧です。約50頭の乳牛を飼育しながら、県内外の小中学校や一般の方々を対象にした「牧場体験」を提供しています。

乳しぼり、餌やり、などの乳牛のお世話のほか、バター作りも体験できます。ユニークで温かい人柄の牧場長、「監督」のお話を聞きながら、牛をふれあい、生まれてくる命の大切さを感じることができます。

牧場で食べることができるソフトクリームも絶品です。

西富士開拓之碑

朝霧高原は、昭和21年1月30日に、西富士開拓団第一陣73人が入植し、開拓を始めました。開拓之碑は、入植30周年を記念して昭和51年に建立された、地域にとって大切な石碑です。

石碑の近くには開拓記念像があり、その横には開拓の歴史を記した碑文が置かれています。

ここは、朝霧高原が全国有数の酪農地帯となるまでの歴史の一端を知ることができる場所です。

富士を仰いで

国破れて山河あり　昭和二十年八月十五日　日本は太平洋戦争に敗れた。この日　わがふる里伊那谷は、古い衣を脱ぎ捨てた。

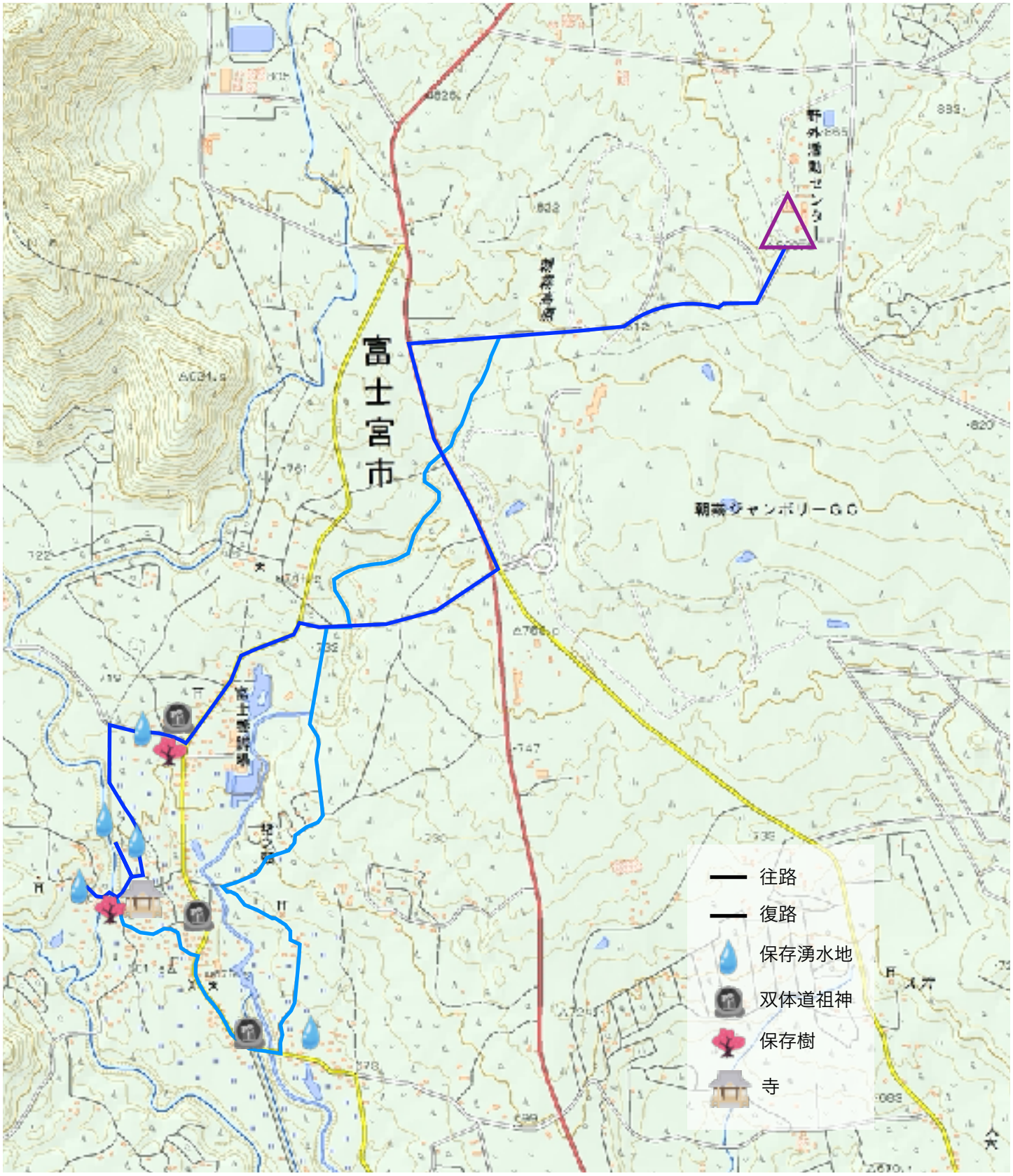
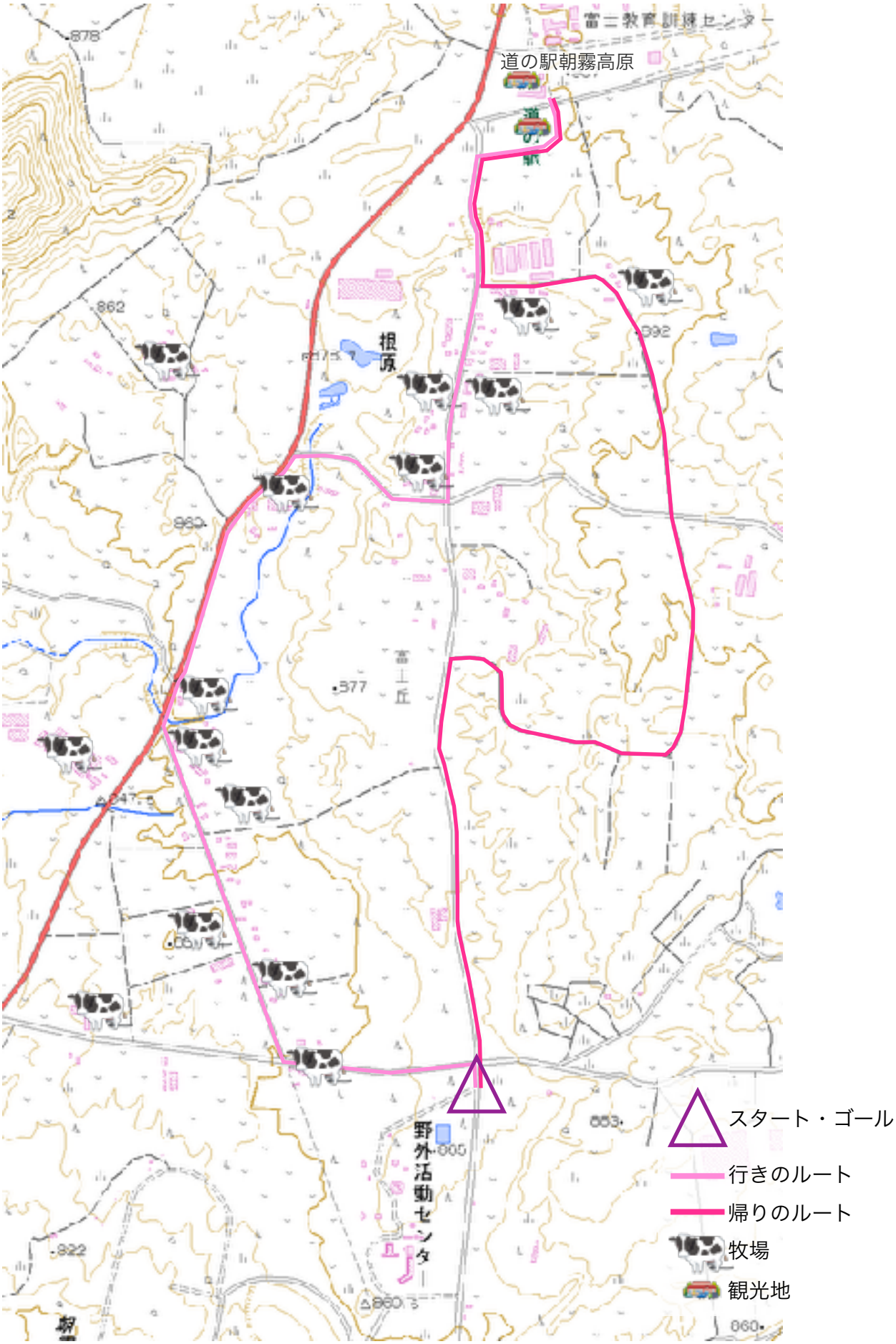
昭和二十一年一月三十日、西富士長野開拓団の第一陣七十三名は、村の道を踏みしめ、国鉄飯田線温田駅に集まった。寒冷は身に染みたが、旅立ちにふさわしい晴朗の朝だった。　ここ東海の天に　「峨々タル精骨」として起立する霊峰は、われらをしっかり抱きよせてくれた、その日から三十年、長野県下伊那郡大下條村助役伊藤義実を団長とする百九十九名は朝な夕な富士を仰ぎ豊かな生産と高い文化の村づくりをめざし、ひたぶるにただひたぶるに歩み続けた。夫と妻は肩を組み、子らを背負うての長い道のりであった。

いま初志は貫徹されようとしている。子らは、われらを越えてあたらしい牛飼いの道を歩きはじめた。富士は、今日も、明日も、西富士長野開拓団の道しるべとして、ここに聳える。

一九七九年十一月三日

西富士長野開拓団

ハイキングマップ　①井の頭湧水探検コース



ハイキングマップ　②富士丘牧場満喫コース